

先週のメッセージは、ガラテヤ 2:16 「しかし、人は律法の行ないによっては義と認められず、ただキリスト・イエスを信じる信仰によって義と認められる、ということを知ったからこそ、私たちもキリスト・イエスを信じたのです。これは、律法の行ないによってではなく、キリストを信じる信仰によって義と認められるためです。なぜなら、律法の行ないによって義と認められる者は、ひとりもいないからです。」の聖句によって要約することができました。そこで今日は、信仰を持つとはどういうことか、ということについてもう少し詳しく見ていきましょう。信仰とは皆さんもご存知のとおり、キリスト教の三大柱の一つであります（1 コリント 13:13）。信仰がなくては神様との健全な関係を持つことができません。聖書を通して見ても、神様に喜んでいただいたのは信仰を持った人たちで、神様の怒りを持ったのは信仰を持っていなかった人たちでした。では自分自身に問いかけてみましょう。「信仰とは何なのか、私たちはそのような信仰に生きているだろうか？」

今日のみことばを見ると、信仰とは単純に聞くこと、信じることから始まるものであることがわかります。パウロはガラテヤの人たちに聖霊に関する修辭的質問をしました。「あなたがたが御霊を受けたのは、律法を行なったからですか。それとも信仰をもって聞いたからですか。（ガラテヤ 3:2）」答えは明白です。それは神様のみことばを聞き、信じたからです。これは神様の恵みは自力で得なければいけない、という間違った考えをくつがえす聖句です。神様の恵みは信じることによって受ける賜物であり、実力主義によって得られるものではない、ということのパウロはここで明確にしようとしています。また、パウロはただ単に霊性というのは正しいことを知ることだ、と言っているわけではありません。私がこのことを取り上げているのは、近頃キリスト教とは真実を言葉で表現する手法のように変化しつつあり、上手く表現できる人ほど霊的であるかのように受け取られる傾向があるように思うからです。もちろん自分が信じているものをはっきりと表現することは大切ですが、それよりも大事なはその信仰をつらぬくことです。ヤコブは悪霊さえも信じている（ヤコブ 2:19）と警告していますが、正しい考えを持った人たちはそう思わなかったので神様の恵みを受けたのです。

パウロはまた、クリスチャンが犯しやすい間違い — 霊的生活とはただみことばに書かれていることを行なうことだ、という考え方について指摘しています。これは異端的な教えとの境目がきわどいところなので説明します。パウロはガラテヤ 3:2 で二つのことを指摘しており、そのうちの一つ、聞いて信じる、ということについてみてきました。その一方で、霊的生活とは律法を守り行なうことだ、という間違いに気付くのも同じくらい大切です。では聞いて信じる信仰とはどういうことでしょうか？それを実行するにはアブラハムを始め、信仰の先輩たちの生き様を見れば良いのです。アブラハムは神様の御声を聞き、信じたので義とされました。純粋なクリスチャンの信仰とは同じものです。アブラハムが聞いて信じたように、パウロが聞いて信じたように、今の時代に生きる私たちも神様の御声を聞き、信じることによって同じ信仰を持つことができるのです。聖書はこれが信仰を守っていくことだと教えています。

私たち自身の信仰を見直すことも大切です。私たちの霊的生活は規則や律法に縛られていませんか？聞いて信じる信仰ですか？あなたは神様と個人的な関係を持っていますか？イエス様をあなた個人の主であり救い主として知っていますか？